



ウイズレポート

Vol. 11

一般社団法人くらしサポート・ウイズ 東京都新宿区大久保2-3-4 出光新宿ビル4階 TEL:03-6205-6719 FAX:03-3200-6134 <https://www.kurashidial.or.jp/> 2025年10月発行

2025年度上期は1,428件の相談がありました 対前年度上期比119.4%です

2025年度上期、くらしの相談は前年度上期より232件増え1,428件となりました。居住支援の相談は上期77件（前年上期比120.4%）あり、月平均12.8件の相談が入っています。

今年度の基本方針は『「協同」の深化とともに、「相談」「居住」「若者」の3つの事業でくらしの課題に寄り添った支援を実現する』です。事業を「相談事業」「居住支援事業」「若者支援事業」の3つに整理して4年目となりました。各事業、課題はもちろんありますが、協同を意識した連携・ネットワークの取り組みは広がりを見せており、「協同」の深化という点では着実に進んでいると考えます。

第9回総会記念講演 ダイジェスト

2025年6月7日 第9回定時社員総会および記念講演会を開催

相談につながる力・つなげる取り組み

講演 「つながることの大切さとネット社会による情報偏食の課題」

講演では、はじめに遠藤氏が事務局長を務める法人が運営する「よりそいホットライン」の電話相談についてお話をいただきました。

東日本大震災を機にスタートし、24時間365日開設のフリーダイヤルにかかる相談は1日約2万7000コール、相談につながるのは年間19万件弱。相談者の意向を確認しながら支援のあり方を決め、専門家につないだり同行支援を行ったりしており、多くの相談につなげるために、これまでSNSでつながる方法（チャット、メタバース、掲示板等）を取り入れてきています。

後半は、若年層が相談支援につながりにくい原因を「情報偏食」の視点で分析し、支援につながりやすくする目的で行った調査についてお話をいただきました。

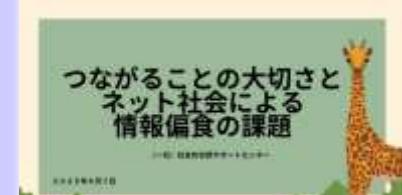
困りごとを抱えた人とつながるために、インターネットは不可欠ですが、ネットの世界では本当に必要な知識は手に入りにくく、マイナスの体験談を目にすることで相談機関から遠ざかる状況も起きています。特に傷ついた経験のある若年層は「相談」への抵抗感があり、行政や警察よりもインフルエンサーへの信頼度が増していることも見えてきました。支援する側がネットでつながりやすい対策をすすめること、リアルにつながって信頼関係を築いていくことなどが相談や支援につなげるために必要な要素になってきているといえるようです。



講師 遠藤 智子 氏
一社)社会的包摶サポートセンター 事務局長

情報的健康
の視点

デジタル
ダイエット



講演会前半 相談員、職員からの報告

- ・くらしの相談ダイヤルの取り組み
- ・相談の現場から～相談員が伝えたいこと～



「くらしの相談ダイヤル」 16年間（2009年～2014年）の相談件数推移



「くらしの相談ダイヤル」の概要や法人設立からこれまでの経緯などを相談担当職員が報告し、電話相談員からは日々の対応で感じていることなどの報告をおこないました。

居住支援事業

住まい探し＆住まい活用に困った方のお手伝い

東京都知事指定第22号 住宅確保要配慮者居住支援法人

居住支援活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。上期（活動期間の前期）の主な活動実績をご報告します。

居住支援
担当から



相談実績の概況

上期の居住支援相談実績は計77件（前年度65件）となり、うち住まい探し相談は67件（前年度56件）と、前年度を上回るご相談をいただきました。民間賃貸住宅等への入居決定は6件でした（前年度9件）。また死後事務のご相談もあり対応を行っております。

相談者の傾向としては、例年よりも女性が多いほか、精神に障害を抱える方や生活困窮している方からの相談も多く寄せられました。社会的に困難な状況にある方への支援を今後も引き続き行ってまいります。

住宅確保要配慮者の支援体制強化のため制度に基づく活動を推進しました。

- ・国土交通省補助金事業：令和6年度居住支援法人活動支援事業の助成が認められ、10月に中間報告を完了しています。
- ・東京都居住支援協議会：5月の総会、7月のオンライン開催に参加し、行政との連携を維持しました。
- ・ネットワーク構築：上期で計4件の訪問（児童養護施設、賃貸住宅フェア、東京都居住支援協議会部会、新宿区の居住支援協議会）を行いました。また、文京区居住支援セミナーで居住支援活動や改正住宅セーフティーネット法について講演を行いました。

一般社団法人全国居住支援法人協議会 事務局

居住支援法人の活動支援や国・行政機関と課題協議



2025年度も引き続き居住支援法人の研修会開催等の活動支援や国・行政機関との課題についての協議、調査・研究等に取り組んでいます。

2025年10月に「住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律」が改正され施行となりました（改正住宅セーフティーネット法）。

入居者保護の強化だけでなく、貸す側（大家さん）が安心して貸せる仕組みにも重点が置かれた改正になっています。ポイントは、「終身建物賃貸借の申請の簡素化」、「ハード基準の緩和」、「残置物処理の受任制度」、「認定家賃債務保証制度」、「居住サポート住宅の創設」、「補助金・支援の拡充」等です。

居住支援における残置物処理業務 改正法施行直前セミナー 開催！

住宅セーフティーネット法の改正に伴い、本年10月から、居住支援法人の業務に「入居者からの委託に基づく残置物処理」（新住宅セーフティーネット法第62条第5号）が追加されました。

これに先駆け、全国居住支援法人協議会と家財整理相談窓口の共同で、地方自治体・居住支援法人・家財整理事業者などを対象に、残置物処理に関する理解を深めるためのセミナーを開催しました。

大阪（9月10日）90名、東京（9月16日）163名、福岡（9月17日）64名 計317名の参加があり、関心の高さが伺われました。



居住支援研修会※

改正住宅セーフティーネット法により、居住支援の現場で求められる知識と役割を学ぶ研修会。2025年11月、12月の4日間、20のプログラムで構成し、1日目と2日目は居住支援協議会等活動支援事業に申請した居住支援法人は受講が必須要件となっています。

詳しくはこちらから→
【※国土交通省補助事業】



居住支援地域連携強化研修会※

居住支援法人設立・運営支援アドバイス事業※

居住支援法人活動の普及拡大に向けた調査事業※

その他
の活動

地域拠点整備事業

要望書

会員数は2025年9月末 381会員になりました。

若者支援事業

若者が自分らしく、社会で活躍するために、様々な取り組みで応援しています



つながりインターンシップ@協同

くらしサポート・ウィズ主催事業



2025年度「協同を学ぶ」インターンシップは12期目の修了報告会が10月18日に開催されました。

*2025年度もつながりインターンシップ@協同は、CO・OP共済 地域ささえあい助成の協賛をうけています。

今年は5大学から学生18名が参加!

国際協同組合年記念
スピーチ



日本協同組合
連携機構 (JCA)
比嘉政浩
代表理事専務



インターンに参加して…

協同組合ならではの働き方に触れ
ることができた。1人ひとりが問題
意識をもって主体的に働いていた。

人とのつながりを意識した
事業をみることができた。

働き方を改めて考え直す
ことができてよかったです。

学生は4つのグループに分かれ、受入団体(生協、労協、社会的企業)で職場体験を行いました。今年度は協同金融での受入につながらなかったため、9月の学生交流会で学生にむけてろうきん協会の方からレクチャーをしていただきました。交流会、修了報告会は企画学生5名が企画/運営に主体的に関わってくれました。

首都圏若者サポートネットワークとの連携事業

首都圏若者
サポート
ネットワーク

共同事務局として、主に就労キャリア支援、政策提言に関わっています

「社会的養護下に暮らす子どもたちなどの多様な自立を、伴走者と共に支援することで、自分の人生を切り開く一助とすること」を目的に活動しているネットワーク組織です。

第8回首都圏若者サポートネットワークシンポジウム

11月16日に開催します!!

「若者のための伴走型就労支援の今:準備から定着へ」と題し、
若者が自分にあった仕事や働き方を模索するプロセスを支える
伴走型就労支援の実践に光をあてます。

就労キャリア支援

第8回若者おうえん基金

11月26日までクラファン実施中!



協同組合への体験就労のマッチング・就労支援をおこなっています。ウィズは東京のコーディネーター業務を受託。児童福祉法の改正により施設入所者の生活費用に変更があったことから、体験を終えたら支払う生活補助費の支給額の変更を検討し、新たに運用を始めました。就労キャリア支援WGで行っている体験就労プログラムへは、上期5件の応募があり、主にパルシステムのデイサービスや配送センター、保育園等に実習に入りました。

奨学金伴走支援

共同事務局として支えています

一般財団法人パルシステム若者応援基金が運営するパルシステム給付型奨学金制度は、2025年度74名の奨学生を支援しています。ウィズは共同事務局として、報告書のとりまとめ、伴走支援団体連絡会議の運営、調整等を行いました。

上期は伴走支援団体から「奨学生に対する家計相談・ライフプラン」について相談があり、他のエリアで同様に伴走支援をし、FPプランなど家計相談を実施している団体に繋ぎ、奨学生に対する個別のオンライン家計相談を実施しました。



相談事業

2025年度上期の相談では、夫婦や親子関係、自分自身への悩みなどの相談が多くありました。いずれの相談も背景には人間関係（家族や職場など）で問題を抱えているケースがほとんどです。また、50代が最も多い年代ではありますが、若年層からの相談、70代以上の高齢者からの相談も増えています。パルシステム組合員向けの法律相談では、相続や離婚についての相談が多くありますが、成人した子どもの借金や離婚の問題、相続放棄に関する相談などもありました。

＊＊こんな相談入っています＊＊

頼れる身内がないので、身元引受人や緊急連絡先をどうしたら良いか考えると不安。

借金があり、自転車操業状態。体調崩し休職、結局退職した。生活保護の相談もしたが条件に合わず難しかった。

長年のモラハラとDVで離婚を考えている。経済面も含めて離婚のメリット・デメリットを聞きたい。

2025年上期キー
ワードランクイン
(重複付与) →



上段：パルシステム組合員
下段：外部

◆◆◆主催学習会 告知◆◆◆

◆熟年離婚をする前に知っておきたい大切なこと◆

様々な理由から離婚を考え悩んでいる方たちのために、リスク面や財産分与・年金分割などについて、弁護士がわかりやすくお話しします。

講 師：田中 記代美 氏
(ファミリー法律事務所代表弁護士)
「くらしの相談ダイヤル」
離婚・DV法律相談担当

◆日 時: 2025年12月10日(水) 10:30~12:30
◆開催方法: オンライン
◆参加費: 無料
◆申込方法: 申し込みフォーム・右記二次元コード
URL <https://x.gd/IrjrC>
◆申込締切: 12月3日(水) 17:00



就任にあたって… 理事長 渡邊たかし



酷暑も和らいできたと思っていたら、涼しさを超えて急に寒くなってしまった。日本の四季は春と秋が細り二季になってしまうのではと不安を感じています。さて、6月の総会で吉中前理事長の後任として理事長（兼、一般社団法人全国居住支援法人協議会事務局長）を担うことになりました渡邊たかしです。どうぞよろしくお願ひいたします。

着任してから4ヶ月が経ち、実感していることは、小さな組織ですがやっていることは広く、深いということ。世の中で起きている“くらし”に関わる様々な問題や課題がリアルな形で集まって来ます。皆さんの事業や活動も様々ですが、“くらし”に通じた事業や活動といった面では共通しています。今後、益々、顕在化していくくらし課題を、当法人の事業を通じて皆さんと共有し、共に解決を目指して「協同・共同・協働」していくことが求められているように感じています。

とはいえる、私自身は、現在、学びを積み重ねており、まだ一人前にはほど遠い状態です。皆さんには、ご迷惑・ご心配をおかけしますが、お役に立てるよう新たな成長を目指して頑張っております。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

会員のみなさまにはご支援とご協力
に感謝申し上げます



◆◆◆ご支援・賛助会員のおしらせ◆◆◆

*賛助会員募集中

個人 一口1,000円／年

法人 一口10,000円／年

会員の皆さんへは総会議案書でウィズの詳しい
事業 報告をお届けします。

*ご寄付も喜んで受け付けています!

ウィズの最新情報は
ホームページをご覧ください



くらしサポート・ウィズ

検索